

学校教育目標 未来に向かって力強く生きる ひとみ輝く 和土っ子の育成

～ やさしい子：やさしいっばい かしい子：かいはい たくましい子：やる気っばい ～



和土小だより

さいたま市立和土小学校

令和5年 4月28日(金)

5月号 発行者 池田 誠

〒339-0033 さいたま市岩槻区黒谷1353番地 TEL048-798-0208 / FAX048-798-8730

学校Webページ：<https://wado-e.saitama-city.ed.jp/> Eメール：wado-e@saitama-city.ed.jp

児童数 160名

新緑の季節となりました

校長 池田 誠

『新緑の ^{ちゅうき}中黄に近き 緑あり』[新緑の頃の葉はきれいな黄緑色をしているが、中にはまだ色付く途中で黄色が強い葉もある。]

この句は、俳人 山口誓子 さんが、緑になる途中の黄色い若葉を詠んだ句です。教室から見える木々の葉は、今まさにこの句と同じような様子になってきています。

新学期が始まり、3週間が過ぎようとしています。教室では、児童も教員も緊張が和らぎ、落ち着いた授業の様子が見られるようになってきました。

明日から大型連休が始まります。3年ぶりに行動制限がなく、コロナ禍の前のように楽しみが増える期間になると思っています。児童には、入学・進級をして頑張ってきた心と体を休めつつ、元気を回復する期間にもしてほしいと願っています。

さて、学年が一つ上がり、新たな目標を立て、何事にも意欲的に取り組もうとする児童の姿が見られます。その姿に、「頑張れ」「頑張ってるね」という言葉をかけることが多い時期です。この一言で奮起を促し、物事に熱心に取り組むことを期待して使います。

以前、先輩に「頑張れという言葉を見直しては」と投げかけられたことがありました。その先輩の思いを十分に推し量れず、「応援しているよ。」「うまくいくといいね。」などの言葉に置き換えることを考えるばかりでした。

児童は誰でも心の中で、「自分は頑張っている。」と思っています。そんな時に周囲から「頑張れ」「頑張ってるね」と言われると、「頑張りが、まだ足りないのかなあ。」「もっと頑張らないといけないのかなあ。」などと思ってしまうこともあります。

「頑張れ」「頑張ってるね」という言葉はよい言葉です。しかし、この言葉をかけて心から励まそうとするときには、相手の頑張る様子を十分に認め、そして、自ら前進しようという気にさせることが大切だと気付くようになりました。「頑張っているね。一段と成長するね。」「あなたの頑張りのおかげで、また助かる人が増えるね。」などと一言付け加えて、声をかけるようにしています。その時の状況に応じて、児童の感情を慮り、「頑張れ」「頑張ってるね」という言葉を使うように心がけています。

結びに、保護者や地域の皆様のご協力のもと、令和5年度が順調に始まることができましたことに、改めて感謝申し上げます。引き続き体調にはお気を付けいただき、風薫る五月、どうぞお健やかに過ごしてください。

5月1日は、「さいたま市民の日」です。本校でもこの日を記念した取組を行っていますが、市内の文化施設や公民館等でも市の歴史や文化に触れることができる企画や催し ※1 が実施されています。

ぜひ、ご家族で参加されてみてはいかがでしょうか。[*1 詳しくは、さいたま市ホームページをご覧ください。]



【校庭に実ったサクランボ】

☆☆ 和土小の150年、そして未来へ ☆☆

【自慢の緑陰 藤棚】

- 昭和57年5月初旬 地域の方より寄贈
 - 同年5月10日 藤の植樹式
 - 同年6月中旬 昭和56年度卒業生より寄贈されたテーブル(3台)を設置
 - 昭和58年2月22日 ベンチを設置 (PTA)
- その後も、地域の方々より藤の寄贈があったり、テーブル・ベンチの数を増やしたりして現在に至る。

《和土小学校沿革史 より》

今年も藤棚には、今年も美しい「藤の花」が、咲き始めています。手入れをしながら大切にしていきます。



開校150周年キャラクター